

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人間として、尊厳や権利を損なわず、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、共同生活を暮らして頂ける思いで事業主と話し合いをしました。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	入職時のオリエンテーションの際に、理念の配布と説明を行い、毎朝の申し送りの際には、必ず理念の確認を行っています。また、各ユニット内や正面玄関内にも掲示しています。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居の際の契約や面会時、ご家族への理念の説明は随時行っており、地域の方々にも行事や会合の場で理念についての説明を行っています。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	春先から秋頃まで天気の良い日は殆んど外気浴・散歩を実施。散歩の途中に近所の方と気軽に声お掛け合ったり、近隣の方が栽培された野菜を頂いたり、また、ホームへ切り花を持って来て下さったりして頂いています。その際に入居者や職員とともにお茶会を行っています。頂いた切り花はさっそく各ユニットや入口からすぐ見える玄関先飾らせて頂いています。飾った切り花の写真を、お花を下さった方にお渡ししております。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事(ミニ運動会・焼き肉パーティー等)に参加し、地域の方々と共に過ごす時間や機会を作っています。また、ホーム側からも、行事や催し物がある毎に声を掛け、ホームの中や敷地内で交流を行っています。昨年町内会の協力のもと、ホームの敷地を利用した盆踊りを開催、一昨年よりも多くの地域住民の方が参加して下さい、入居者との交流もより深められた事に感謝しています。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の行事開催時の場所の提供(敷地等)、入居者が参加する町内会行事への職員支援を行っています。また、気軽に立ち寄って頂いた際には、入居者や職員とともにお茶会を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>運営者の指導のもと、各ユニットのリーダーが中心となり、スタッフ全員が自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価された不十分の箇所の強化・改善に努めています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>年6回の運営推進会議を開催。町内会役員・ご家族・入居者・地域包括センターの担当者の方々のもと、2か月毎に支援状況や行事報告・会議毎にテーマを決め話し合いや相談事を協議する中で、貴重な意見や助言を頂きサービス向上に努めています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>相談事や支援を行う中で行き詰まりが生じた場合など、市や地域包括支援センターを訪問し、指導や助言を頂いたり、地域の方々との交流をより深める為のご協力を頂きながら、サービス向上に努めています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護や成年後見制度についての研修会に参加し、学習会やスタッフ会議等で他の職員にも情報提供したいです。他の事業所等から相談や質問を受ける事もあり、機会ある事に説明を受け理解を深めています。また、地域包括センターには、この制度に知識や情報がある為、助言を頂きながら必要な方には活用出来るよう支援に努めています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修会にも参加し、ホームの学習会やスタッフ会議等で他の職員にも情報を提供しています。事業所内での虐待の防止に努めるとともに、職員の精神面の理解及び支援を行う中での不安やストレスを少しでも軽減できるよう、常にケアについての話し合いを行っています。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居契約時に内容の説明を行い、不安や疑問についても分かりやすく説明する事で、理解・納得をして頂いています。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どんな小さな事でも、入居者の意見や不満・苦情を傾聴し、早期解決に努めています。解決が困難な場合には、ご家族への説明とともに協力を頂きながら、解決法を相談させて頂きます。また、普段から馴染みの関係を持ち、スタッフ側からも機会を見つけて、意見や不満などを聞けるような雰囲気作りに努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族対応での定期通院時や面会時・電話連絡等にて、日々の生活状況や健康状態の報告をさせて頂いています。また、月に一度の育成通信誌発行の中で、行事の参加や日々の暮らしぶりを写真で掲載し、お一人おひとりに職員より、その月の様子がお伝え出来るようコメントを入れ、各個人のご家族へ送付させて頂いています。金銭管理については、収支伝票及び出納帳の記入を徹底しています。フロアーの出入り口には、ご家族が分かりやすいように、職員の写真を掲示。また、新入職員が入った際には、育成通信にも掲載し、ご家族にご紹介しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情に対応する職員を置き、ホーム玄関先に意見箱と意見・苦情用紙を設置。面会時や電話等でご家族がいつでも意見・不満・苦情等と言える雰囲気作りにスタッフ全員が心がけています。事業所内で解決が困難な際には、第三者機関や市・道の苦情担当者への相談も可能である事をお伝えし、出来る限り早期解決が図れるよう迅速に努めます。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議やケアカンファレンスの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。定期的及び必要と思われる際に随時個人面談を行い、職員一人ひとりの意見・提案を聞き、反映させています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為話し合いや勤務の調整に努めている。	常にユニットの職員全員の協力があり、突発的な勤務調整や必要な時間帯の職員確保も出来ています。冠婚葬祭などで長期休暇等が必要となった際にも、職員一人ひとりが調整可能な日を提示するなど、快く了解して頂いています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日頃より、2・3階の入居者が行き来し交流を深めており馴染みの関係づくりをしていることから職員の離職があっても、入居者の大きな動揺も無く、ダメージも最小限に防止することができ、現在も馴染みの関係は維持できています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修に参加して頂き、研修内容をスタッフ会議や学習会で他の職員に報告し、情報を共有しています。また、実際に援助の中で実践し、確認・理解してもらう事で、各ユニットの職員のスキルアップの向上に努めています。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会の研修会や交流会等への参加及び地域包括センター主催の学習会等にも参加。同業者との交流を図りながら、同業者同士の職員の交換研修等を通じ、参考にさせて頂きながら改善すべき個所は早期に話し合うなど、サービス向上に向けての取り組みを行っています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	定期的に各ユニットを訪問し、一人ひとりの職員と挨拶・会話をする中で、不安や疑問・意見や不満等の訴えを聞き入れるなど、少しでも個々の職員のストレスを軽減する為の取り組みをします。忘年会や新年会等も行っています。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個々の職員の支援に対する努力・実績勤務状況等をフロアーリーダーから報告を受け、職員のメンタル面にも配慮しながら、個々の技能・能力を生かし、常に向上心を引き出せるような指導・助言に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用相談の際より、ご家族や関わりのある事業所等から情報の提供をして頂き、傾聴・受容の姿勢で取り組む事で、ご本人が困っている事・不安な事・求めている事を、安心して相談できる受け入れ態勢・雰囲気作りに努めています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用相談の際より、関わりのある事業所等から情報提供をして頂きながら、ご家族の思いや困っている事・不安に思っている事・求めている事などを傾聴し、十分な説明を行う事で、安心してご利用頂けるよう心がけています。また、ご家族が気軽の意見や相談事が話せるような雰囲気作りにも努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用相談の際より、ご本人やご家族の思いや意向を傾聴し、必要としている支援の見極めを行っています。求められている支援に対し、職員全員と協議を行いながら、初期の介護支援計画を立て、その他のサービスについてもご家族と相談し、必要としているサービス利用を含めた支援に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用相談の際には必ず、ご本人やご家族にホーム内を見学して頂き、ホームでの生活の様子や雰囲気を体験して頂いています。また、その際に他の入居者と一緒にお茶会を行うなど、交流を図る為の場面作りの工夫も行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	身体の障害、及び重度の認知症の方が多い中で、職員全員がケアを統一し茶碗拭きや、おしぼり畳み・カーテンの開閉等、個々の残存能力を生かした共同作業や日常生活動作を行って頂いています。また、関わりを多く持ちながら、日々の生活の中で喜怒哀楽を共にし、古くから伝わる良き風習を教えて頂いたり、逆に時代の移り変わりによる物の変化や利便性などを伝える事で、共に過ごし支え合う関係作りに努めています。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的な連絡や面会時・月に一度の通信誌により、個々の入居者の様子を報告すると同時に、ご家族への要望を伝える代弁者となり、ご家族と連携を図りながら共に支援を行っています。その他、ご家族には行事や催し物がある際にはご案内をさせて頂き、個々のご家族との時間を共有出来るように働きかけています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族からの情報提供を頂きながら、ご本人とご家族との関係の理解に努め、ホームでのご様子とともにご本人のご家族への思いを伝えたり、交流が図れる場面作りを行う事で、より良い関係を築き・絆が深められるよう支援に努めています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容室やお店・観光場所へ行ったり、親戚や友人との電話のやり取り・来設を受けています。また、趣味等も継続できるように支援に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が仲介役となり、入居者同士の交流・関係作りの支援を行っています。最近では、入居者同士がお互いを気遣い声を掛け合ったり、時には助け合い、支え合いながら生活を共にしています。また、ご本人の希望されている事や訴えのある際には、代弁して職員に知らせて下さる事も多くあります。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院等によりサービスの利用が終了したり、また、他の施設に移られた際にも、必要とされる対応や支援をさせて頂いています。逆に退去後もご家族が連絡を下さったりしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員全員と情報を共有しながら支援に努めています。把握が困難な場合は、ご本人の動作や表情の中から思いや意向を感じ取る努力を行い、ご家族や職員全員と話し合いながら、ご本人本位の介護計画を作成し、支援に努めています。また、日々の生活の中で、自分の思いを伝えられるような信頼関係作りにも努めています。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や関わりのあった事業所等から情報の提供を頂き、直接ご本人に生活歴をお聞きし、居室には馴染みの物や家具などを持ち込むなどしながら、これまでの暮らしの把握に努め、住み慣れた環境作りに努めています。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの身体機能と残存能力の把握に努め、日々の生活の中での体調の変化や動作・表情・言動の観察を行い、個々の介護記録に記載。職員間での情報共有を行いながら、その人なりの生活が維持できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族・ご本人の思いや意向を反映した、利用者本位の介護計画となるように、職員全員と話し合いながら、介護支援専門員がご本人・ご家族・職員一人ひとりの意見や提案を盛り込んだ介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本3ヶ月毎の見直しの他に、身体及び精神面の急激な変化がある毎に、ご本人・ご家族と相談し、不安や意向について傾聴。速やかにケアカンファレンスを開催し職員間で話し合い、状況報告や意見・職員一人ひとりの提案を盛り込みながら、介護支援専門員がご本人なりの安定した生活を過ごして頂くための介護計画を作成し、職員全員が内容確認の後、ご家族への説明・了解と捺印を頂いています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活状況や体調の変化、介護計画の中で課題内容と思われる動作や言動、対応などを介護記録に記載し、職員間での情報共有にも活用しています。記録内容を参考に職員全員で検討しながら、支援の実践や介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族と定期的な連絡及び連携を図りながら、外出や病院受診等の支援を行っています。ご本人の意向・要望によっては、買い物や近郊へのドライブ、公共施設への見学等も実施しています。その人なりの生活が継続して頂けるように、柔軟な姿勢で支援に取り組んでいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	災害など必要に応じて交番や消防・地域の方々へのご協力をお願いしています。年に2回定期的に消防訓練を実施。外部徘徊等の対策としてSOSネットワークとの連携、地域や小学校のボランティアの慰問を受けるなど、皆様ののご協力を頂きながら支援に努めています。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の必要に応じて、地域のケアマネジャーやサービス事業者に相談・話し合いながら、福祉用具のサービスを利用したり、介護タクシー等を利用しています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的な訪問や運営推進会議等の際に、入居者に対する相談事やご家族の悩みの相談、地域住民との取り組みについての指導や助言を頂くなど、常に協力体制・連携を図っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の利用者のご家族と連携を図りながら、かかりつけの病院へ定期受診及び異変時の受診対応を行っています。ご家族が受診同行の際には、経過状況報告書と健康管理票(バイタルチェック表を作成)をご家族に持参して頂く事で、適切な医療が受けられるよう支援に努めています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科やかかりつけ医との連携を図りながら、受診時及び往診時に経過状況報告等を行う事で、入居者が認知症に関する診断や適切な治療が受けられるよう支援に努めています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的な訪問看護師の来設の際には、日常生活の状況及び治療経過の報告・相談をし、一人ひとりのご様子を見て頂きながら、日常生活上の指導を受ける事で、健康管理や医療活用の支援に努めています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院された際、ご家族の負担軽減のため連絡を取りながら、定期的に訪問し、必要物品の準備と衣類の洗濯・交換の実施。療養状況や療養方針について看護師やソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めています。退院後の安定した受け入れ態勢が整えられる様、スタッフへの情報共有も常に行っています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に関しては、ホームの利用相談の際より、ご本人やご家族からの不安事として相談が多い為、早い段階から話し合い、ターミナルを希望される方には医師や訪問看護師との協議の上、スタッフにも方針を周知・共有しています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医や訪問看護師の協力のもと、重度化や終末期の利用者が、残された日々をその人なりに穏やかに過ごして頂けるように、ホームとしての「できる事・できない事」を見極め、ご家族への十分な説明と理解を得ながら、医療との連携を図り、チームとして精神誠意支援に取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームから別の居宅及び施設等へ移り住む際、移動先との話し合いや支援状況等の情報交換を行い、介護内容を詳細に記入した添付書をお渡しする事で、住み替えによるダメージの防止に努めています。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないように優しい雰囲気でするように努めています。個人情報事務所の書庫にて保管・管理を行っています。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の会話の中で、ご本人の思いや希望を他者に伝えられるような信頼関係作りに努めています。また、ご本人のしたい事・行きたい所などを選択出来るように働きかけるなど、自己決定の支援も行っています。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々の生活習慣を把握し、ご本人の意向を尊重した支援に努めています。その人らしい生活を過ごして頂けるように日々の健康管理とともに、ご本人の思いや希望を発する事が出来る環境作りに努めています。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人の好みの色や服装を把握し、その人らしさが保てるように支援に努めています。また、整容の乱れや汚れなどに対し、ご本人の自尊心を傷つけない様、さりげない誘導と援助に心がけています。理・美容に関しては月に一度、専門の美容師が訪問。中にはご家族や職員と外出して馴染みの理・美容室に出掛けたり、洋服を買いに行かれる方もいます。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>身体機能の低下及び認知症の症状が中・重度の方や、ご高齢の方が多いため、食事作りや掃除をする事が困難であるも、食材の下処理食器の配膳・下膳、食器拭き等を手伝って下さったり、居室の掃除の際に、掃除がしやすいように物を移動させて下さったりと、ご本人なりに出来る事を実施されています。献立も職員がきめてしまうのではなく、事前に何が食べたいのか個々に入居者と相談しながら、献立を決めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、タバコを喫煙される方はいませんが、お酒は体調を考慮しながら、希望された方のみ、行事等の際にお出ししています。飲み物は入居者の好みの物や身体の優しい物、昔懐かしいサイダー系の物なども用意。おやつも好みに合わせた手作りのお菓子や、昔懐かしい駄菓子等も個々の希望に合わせてながら用意する事で、楽しみの一つになるように支援しています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	現在、車椅子使用にて一人ではトイレ移動・排泄行為が出来ない方や、認知症の進行により、排泄を訴える事が出来ない方がいますが、ホームでは定期的にトイレ誘導・移動介助をする事で、失禁はあるものの、ご本人なりにトイレでの排泄ができています。また、重度の身障者の方に対しても、出来る限り自力でトイレに行き、排泄がしたいという思いを尊重し、職員2名でのトイレ誘導・移動介助を行う事で、気持ちよく排泄出来るよう支援しており、オムツの使用を減らせるように努めています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々に気持ち良く入浴して頂く為、強要はせずご本人に入浴の意向を確認しながら、週2～3回程度の入浴を支援しています。入浴を苦手とし、拒否される方に対しても、時間を置いて別の職員(気の知れた)からの再入浴の促しをしたり、日を改めて入浴を勧める事で、安楽な入浴ができるよう支援しています。また、入浴する際には入浴剤などを投入するなど、入浴を楽しんで頂けるよう支援しています。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	リビングには2か所ソファが設置されており、それぞれ自由に寛いで頂いています。車椅子に方や足のむくみのある方など、状況に応じてソファに移動介助し、足を延ばして頂いたり、高くする事で気持ちよく休息して頂けるよう支援しています。また、夜間不眠傾向にある方については、職員とともに日中軽い運動をして頂いたり、物作り等の活動を実施。時には、回想法を用いた団欒の時間を持つ事で、精神面の安定化を図り、安心して休息・睡眠が取れる様支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴や趣味を活かし、カラオケや畑仕事・物作り等を実施。定期的に近郊へのドライブに出かけてソフトクリームやお饅頭を食べたり、近隣の方との交流を図る事で、集団の中であっても閉鎖的な生活とならぬ様、張り合いや喜びの持てる支援に努めています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	大きな金額に関しては、ご本人・ご家族と相談し、事務所内の金庫で保管させて頂いています。ご本人の希望によっては、おこずかい程度の金額を管理して頂き、外出やドライブの際に買い物代金をご自分で払って頂くなど、自らお金を管理し使えるように支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	春先から秋頃まで天候の良い日は、入居者様の体調の状態確認し、近郊へのドライブや外食・買い物など屋外へ出かける機会を多く取り入れています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ホームでは定期的に個々の入居者に行きたい所を聞きながら、四季のドライブや食べ歩きドライブに行っています。また、ご家族との温泉旅行や法事の為の長期旅行にも出かける為、健康管理及び日常生活の状況をご家族にご報告する事で、安心して気軽に出かけられる機会がつかれるよう支援しています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話を掛けたり、手紙を書いたりする事は出来ませんが、希望時及び定期的にご家族との連絡が取れる様、職員が電話を取り次いだり、ご親類やご友人からの手紙が来た際には、職員が代筆を頼まれ返信する事もあります。今年は、入居者様それぞれの写真とお言葉を入れた年賀状を御家族へ送っております。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族やご友人等が訪問の際には、気楽に過ごして頂けるように場所を設けたり、ご家族の訪問時には、楽しい思い出やホームでの出来事を話して頂くなど、和やかな時間を過ごして頂けるよう工夫しています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が身体拘束における具体的な内容を把握しており、学習会や会議の場でも再確認しながら、身体拘束しないケアに取り組んでいます。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が鍵を掛ける事への弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでおり、現在、鍵を掛ける事はありません。また、帰宅願望の強い方に対しても、ご本人の行く手を阻む事無く同行し、ご本人の思い・意向を傾聴しながら納得してホームに戻られるような支援をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個々のプライバシーに配慮しながら、居室在室時は自由に扉の開け閉めをして頂き、ご本人なりの安楽な時間を過ごして頂いています。定期的な見守りの際には、必ず扉をノックして訪室し、声掛け・安否確認をさせて頂いています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態・生活状況に応じて、必要としている物品(裁縫道具・鋏・爪切り等)に関しては取り除く事せず、自由に使用して頂いています。注意が必要になった際にはご家族にご相談させて頂き、また、ご家族がご本人と相談して頂きながら、危険の防止に努めています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全てが入居者一人ひとりのADL状況を常に把握し、会議等でここにどのような危険性があるのかを報告・連絡・検討しながら、事故防止に取り組んでいます。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時・緊急時のマニュアルを作成。常に職員が早期対応出来るように、学習会や会議の際に対応方法を確認している。ホームにはAEDを設置し、分かりやすく使用方法のマニュアルも装備しています。また、消防署より職員を招いて、ホームにてAED使用方法の講習会を行い、職員全員が参加しています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議において、町内会役員の方々に災害時、地域の皆様の協力要請をお願いしています。また、防火訓練の際に消防職員にいちばん安全と思われる避難方法・避難場所についてご指導頂き、職員全てに周知しています。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご入居前より、ご本人との面会及びご家族やサービスを受けていた事業所からの情報提供により身体状況を把握し、個々に起こり得るリスクについてご家族に十分な説明・理解を得ています。日々変化がある毎に報告・相談、状況に応じた対策を行う事で、抑圧感のないご本人なりの暮らしが維持出来るよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタル測定、排泄確認、更衣・入浴時の動作及び全身の皮膚観察、歩行、言動、表情などを記録し、異常がある際には、速やかに対応を行うなど、早期発見に努めています。また、同時にご家族にも連絡・報告・相談する事で早期対応への協力も頂いています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服用している薬が一目でわかるように、個々のファイルに処方箋を添付しています。また、個人の薬箱を作り、日々の内服薬に関しては、朝・昼・夜・食前・就寝前など必要に小分けしたケースを置き、内服薬確認表と照らし合わせながら、服用の都度、氏名の確認・服用後の確認等を徹底して行っています。薬の変更があった場合には、診療報告書並びに日報に記載。日報については全ての職員が確認後にサインをするようにしています。また、症状の変化があった場合には医師に報告できるよう、状況報告書を記入し、受診の際に提出させて頂いています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日々、排尿・排便表のチェックを実施。便秘気味の方の水分・食事量のチェックを行い、ご家族の協力を得ながら過度にならない程度の好みの飲食物の提供、献立や調理の工夫にも努めています。また、春先から秋頃までは入居者の体調に合わせ、外気浴や散歩等の運動を実施。冬期間は室内での歩行・足踏み・ゲーム等の運動に参加して頂くなど、身体を動かす働きかけに取り組んでいます。自力での排便困難や便秘症については、かかりつけの医師に相談し、便秘薬・座薬等の処方を受けています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを実施。介助が必要な方には、義歯・口腔洗浄等の介助を行っています。個々の口腔状態を観察しながら、ご本人の訴えや治療の必要な際には、往診・受診対応も行っています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、水分や食事摂取量のチェックを実施。塩分や水分制限の方もいる為、個々の健康に配慮しながら全体の味付けは薄味とし、食材の風味を活かした調理の工夫や食事の回数を増やす事で、栄養バランスが保てるよう支援しています。水分摂取についても、水分不足の方には好みの飲み物を用意したり、小分けにして回数を増やすなど、必要な水分量が確保できるよう支援しています。月に一度体重測定を実施。比較、参考にしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し、流行時の対応に活用。インフルエンザ対策として、入居者及びスタッフの予防接種を実施。外出後は必ず手洗い・うがいの励行、来設者にも同様に実施して頂いています。ノロウイルスのように季節によって多く発生する感染症の対策としては、その期間、なま物の食材及び外部からの飲食物の持ち込みを禁止とし、ご家族との面会も一定の場所を設け、そちらで過ごして頂いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日、台所の調理器具等の殺菌消毒を実施。食材の有効期限や保存方法を守り、食事を作る時間(特に夏の期間)を考慮しながら調理・工夫に努めています(基本、作り置き2時間以内)。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>バリアフリーの玄関には畑と花壇が隣接し、ベンチが設置されています。毎年春先には地域の方々の協力を受け、畑・花壇に種や苗を植え、設置されたベンチに座りながら、秋頃まで畑の生育状況や花壇の花々を楽しむ事が出来ます。時には近隣の方もお茶会やホームの昼食タイム、地域の方も交えた周年祭なども行われ、子供達も気軽に寄ってきます。また、ホーム玄関前は毎年町内会の行事にも活用されています。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関やユニット出入口、リビング等には季節ごとのタペストリーや花・小物を飾り、季節感を取り入れています。また、1階フリーフロアーには、共同作業で作った作品なども同様に展示し、いつでも見学しながらくつろげる娯楽の場所となっています。トイレはいつでも安心して使用して頂けるよう、常に清潔に心がけています。共用空間の掃除の際には、事前に声を掛けてから掃除機等を掛けています。</p>		
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングには、テーブル席とソファが2か所設置されており、それぞれお好きな所で自由に過ごして頂けるように工夫しています。1階のフリーフロアーにも娯楽の場所や和室が設置され、自由に使用できるようになっています</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前に使用していた馴染みの物を用意して頂いたり、転倒防止に配慮しながら、ご本人が心地よく生活して頂けるよう工夫しています。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>共用空間及び各居室の温度調整を行いながら、ほぼ毎日換気を行っています。体温調節が難しく換気により寒さを感じる方がいる為、一度に全ての換気を行うのではなく、共用空間の換気の際には居室にて過ごして頂き、居室の換気の際にはリビングにて職員と談話や趣味・物作り等で過ごして頂くなど、入居者の状況に応じて実施しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全体がバリアフリーであり、手すりや備付けの椅子等設置されていますが、入居者のうち5名が車椅子を利用。自力歩行可能な4名もまた、ふらつきや躓きがあり、転倒の危険性がある為、共用スペースの移動場所には物を置かないよう常に配慮し、移動時の見守り強化と声掛け・誘導を行うなどしながら、その人なりの自立した生活が過ごせるように工夫しています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	会話の中で、「理解できる事・理解できない事」、「できる事・できない事」を職員全てが把握し、見守り強化しながらさりげない援助を行うなど、混乱や失敗を未然に防ぎ、その人なりの自立した生活が過ごせるように工夫し、支援しています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物のほぼ周囲全体が畑や花壇になっており、春先から秋頃まで野菜作りや花の彩ろを楽しまれています。秋の収穫期には入居者自らが収穫し、その喜びを味わって頂いています。各階のベランダには物干し台を設置し、洗濯物干しを手伝って下さったり、個人の鉢植え等を置き、生育を楽しまれています。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向について把握し、意見を出し合ってケアプランを作っております。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>「介護する」「介護される」といった一方的な関係ではなく、一緒に過ごす時間を作ることによって、喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり支え合う関係を築くのはサービスを支援するには不可欠であると考えております。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの生活のリズムや、本人の意向を大切に、日々の暮らしがその人らしいものとなるように心がけています。ホームの都合や決まり事に合わせるのではないと思っております。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>基本的な生活の支援として、身だしなみやおしゃれ、食事を楽しむなど、一人ひとりの好みや力を活かしながら支援しております。また、気持ちよく排泄するための工夫や、くつろいだ気分で入浴していただくなど、工夫して支援しております。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>利用者がホームの中だけで過ごさずに、散歩など戸外へ外出できるような支援をしています。畑もあるので、作物の成長を見るのが日課の方もいますし、同じ町内では花壇の整備してくれる方も多く、それを見るのが楽しみでもあります。また、普段行けないような場所に車でドライブする事も定期的に行っています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>平成19年より、訪問看護ステーションと連携を持ち、定期的な訪問を受け健康管理や悪化予防、助言や指導も頂いています。また、歯科や皮膚科の往診もあります。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>利用者の要望は固定したものではなく、その時々本人やご家族の状況、要望に向き合って、必要な支援を柔軟に行っております。それには、馴染みの職員が継続的に支えるのが不可欠であると考えております。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>理念にもありますが、ご家族との理解と協力があってこそ、利用者へのより良い支援に繋がると考えております。ホームに介護をゆだねきりではなく、連絡を密にとりながら信頼関係を築いていかなければならないと思っております。</p>

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目			
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	入居者の高齢化により、馴染みの方も高齢化のため、すこしづつ減っていますが、ご来設の際には、時間の許す限り、居室やリビング等でお話しをして頂けるように配慮しています。また、地域に密着した運営をする中で、地域の方々にホームの敷地を開放し町内会の行事等を行う事により、地域の方が気軽に寄って頂ければと思っております。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	運営推進会議は定期的に行っており、町内会の役員の方が参加してくださっております。町内会の行事にも積極的に参加しており、地元の関係は深まってきていると思います。また、包括支援センターとの連携では、地域巡回相談の場所としてホームのスペースを利用する予定もあります。
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどない	定期的に個人面談を行っています。職員の働く環境が良いものでなくては、良いサービスの提供はできないと考えております。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどない	利用者がその人らしく暮らし続けるため、職員全員で話し合いをしてケアプランを作成していますので、できる限りのサービスは提供していると思っております。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどない	最初の相談から現在に至るまでの関係作りはできていると思っております。本人と家族の思いの違い、家族同士の中での違いも含め、ご家族の立場に立って、お話をしっかりと聴き、受け止めながら信頼関係を築いております。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

理念にも謳っているとおり、入居者にとっての安心できる環境を提供し、その人らしいあたり前の生活が送れるように努めるとともに、地域住民との交流を大切に、地域の中で孤立した場所にならないように努めています。また、ボランティアを招いて、民謡や歌謡曲等を披露して頂いたり、ドライブや公共施設見学等を行う事により、入居者が外部と積極的に交流が行えるよう取り組んでいます。また、グループホーム協議会等が主催する色々な職員研修会へ職員を派遣し職員のスキルアップにも努めています。今後もより地域に密着したグループホームを目指し、町内会をはじめ様々な機関と連携を図り安心でき、入居者の尊厳や権利を損なわない環境作りに努めていきたいと思っております。